

「第1回 TSR 総合調査」に関する報告

平成27年10月～平成28年1月調査

平成28（2016）年3月



大正大学

目次

| | |
|-----------------------------------|---|
| TSR 総合調査報告によせて | 1 |
| 大正大学のマネジメントサイクル | 2 |
| TSR 総合調査 経緯・概要・分析結果 | 3 |
| I. TSR 総合調査の「経緯」—立案・実行・今後— | 3 |
| II. TSR 総合調査の「概要」—調査結果を踏まえた今後の課題— | 5 |
| III. TSR 総合調査の「分析結果」 | 7 |



大正大学

TSR 総合調査報告によせて

学長 大塚 伸夫

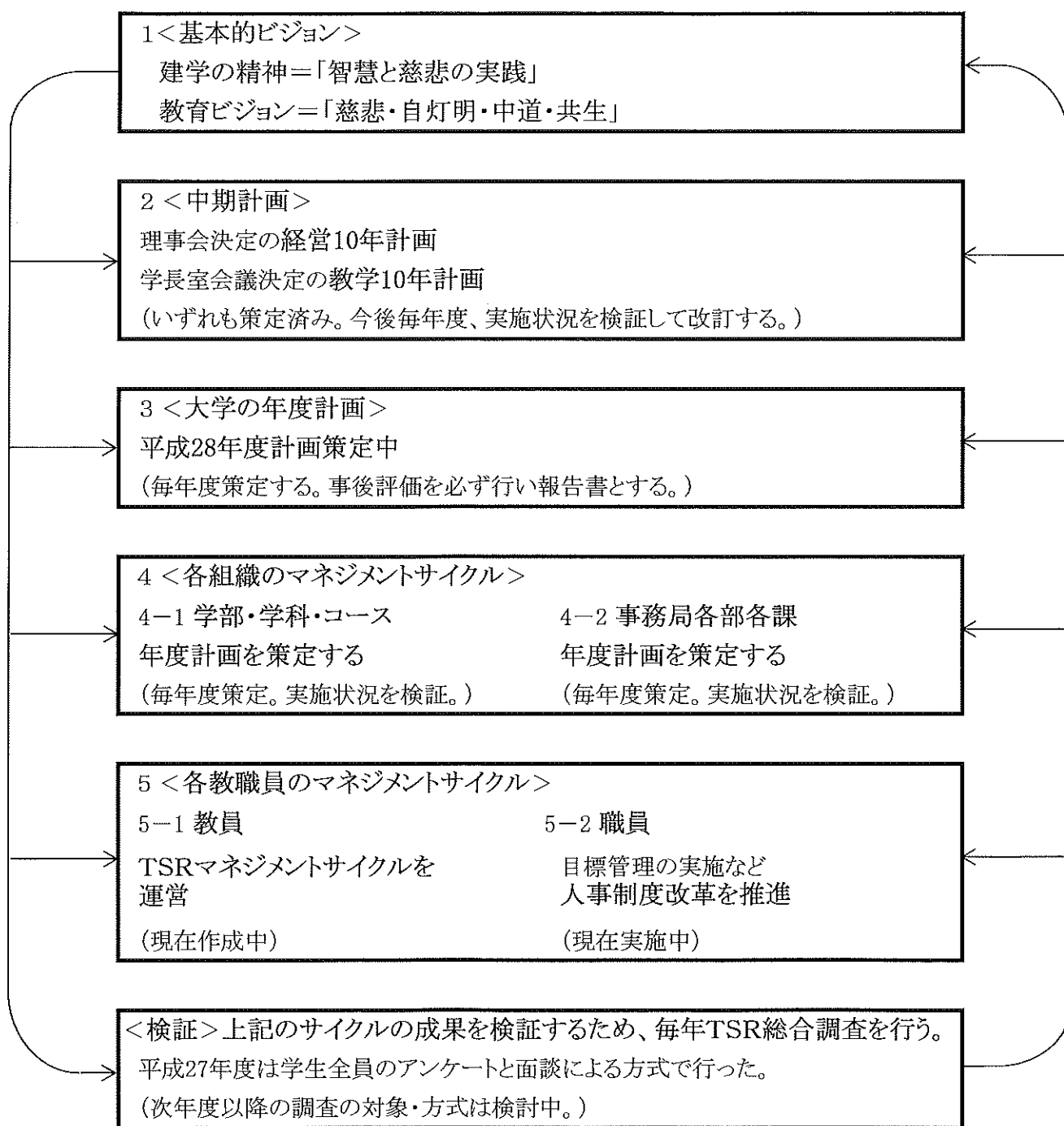
本学では、平成 21 年度に大学運営ビジョンの実行を促すために TSR (Taisho University Social Responsibility 大正大学の社会的責任) の理念を掲げ、実務執行のシステム化 (TSR マネジメント) をはかってまいりました。その一環として平成 24 年度には、第 2 次中期マスタープランを策定して「首都圏文系大学においてステークホルダーからの期待、信頼、満足度 No.1 を目指す」という新たな運営ビジョンを掲げました。その運営ビジョンにもとづいて平成 26 年度には、特色ある地域作りを実現するために地域構想研究所を新設し、平成 27 年度には文学部に日本文学科を、また平成 28 年度には日本の次世代を担う地域創生の人材を育成するための地域創生学部を、さらには新たな構想のもとに心理社会学部を開設するなど、組織体制の整備を中心にさまざまな取り組みを実行してまいりました。

一方、ステークホルダーの大学に対する精神的かつ知的な満足感を醸成するため改革も行ってまいりました。その中でも特筆すべき事業の一つが、このたび実施した TSR 総合調査です。実施経緯の詳細は、TSR 総合調査委員会委員長でもある小嶋知善副学長の報告に譲りますが、同調査の実施は大正大学 90 年の歴史のなかで初めての試みといえます。調査内容は、①環境・施設、②教育、③学生生活、④就職、⑤地域連携、⑥社会的評価の 6 部門にわたるもので、職員が全学部生と全大学院生およそ 5000 名を対象に、マークシートによるアンケート調査と直接面談による聞き取り調査という 2 方式で行われました。その目的は、何よりも本学がより良き大学となるためであり、本学の取り組みがステークホルダーである学生の期待に応えているか、満足感を与えているかなどを検証するところにあります。まさに全学的な意味で平成 21 年度より積み重ねてきた大学改革の成果が問われる調査でもあったといえます。その一方で、職員がこの調査に直接あたったことに鑑みれば、学生からの生の意見を聞くことができた点で、職員にとっても有意義な気づきの場・学びの場になったのではないのでしょうか。職員には日常業務の上にさらなる業務が重なって大変なご苦勞をおかけしました。そしてご協力いただいた教員に対しましても感謝いたします。

昨今、日本全国の大学は、18 歳人口の再減少化という社会問題に対応する独自の改革案を策定して実行に移してきました。本学もその例外ではなく、大学の生き残りをかけて TSR マネジメントのもとに上述したような改革事業を展開している途中であります。かかる改革過程の中で実施された TSR 総合調査を単なる調査で終わらせることなく、学生の期待に応えるべきものには優先順位を設けて、平成 28 年度の重点施策に改善事項として盛り込み、本学のさらなる改革につなげていく方針です。今後こうしたステークホルダーに向けた TSR 総合調査を実施する予定です。一步一步、確実に改革改善の歩を進め、10 年後に迎える 100 周年をめざして、魅力ある大正大学、社会に貢献できる人材を育成する大正大学、社会に開かれた大正大学を実現していきたいと思っております。その結果が「首都圏文系大学においてステークホルダーからの期待、信頼、満足度 No.1」という運営ビジョンの達成につながるものと確信しています。今後の大正大学に期待していただくとともに、その期待に応えるべく学長の責務を果たしていく所存です。これからの大学運営に関係各位のご理解とご賛同を切にお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

以上

大正大学のマネジメントサイクル



◎上記サイクルを確立することにより、10年後の大学創立100周年(2026年)を目指して、ステークホルダーの満足度を向上させ、知名度を高める大学ブランディングを推進する。

TSR 総合調査 経緯・概要・分析結果

副学長 小嶋 知善

I. TSR 総合調査の「経緯」—立案・実行・今後—

TSR 総合調査を行うにあたって、TSR 総合調査委員会を立ち上げました。メンバーは、大塚学長・木元副学長・上杉理事長特別補佐・平盛事務局長・高橋教務部部長補佐・日下田質保証推進室助教および学長室の職員、そして私（委員長）です。

当会は、昨夏7月、8月に6回ほど集中的に行って方針を定めました。その結果、本調査は、本学学生全員に対して行うこと。アンケートと面談による聞き取り調査を主体に行うこと。職員がチームを組んで調査に当たること。などの基本方針と実行のプロセスを決定しました。

(1) 【目的】

大正大学は、教育の質の向上と経営の強化を実現するために、マネジメントサイクル(左図参照)を構築しつつある。TSR 総合調査は、このサイクルを検証するための重要な調査と位置付ける。

本学で平成 24 年度より実行してきた「首都圏文系大学においてステークホルダーからの期待、信頼、満足度 No.1 を目指す」という運営ビジョンに基づいた取り組みについて、運営ビジョンを掲げてから5年が経過することを契機とし、これらの取り組みがステークホルダーの期待に込えているか、満足感を与えているかを検証する。

(2) 【実施期間】

平成 27 年 10 月 7 日（水）～平成 28 年 1 月 25 日（月）

(3) 【対象学生】

全学部生、全大学院生 計 4,830 名

(4) 【実施内容】

- アンケート調査（マークシート方式）
- 全事務職員による学生全員面談を行う。職員が2名1組となり、10回から15回程度担当する。

(5) 【実施方法】

授業時間中、原則 60 分。実施科目については、各学科・コースで原則としてゼミ科目（学科必修でかつ少人数の授業科目）とする。授業の一環として実施するため、教員は立ち合う。

（具体的実施方法）

- 学生がグループに分かれる（授業開始原則 30 分後）
- 調査票・マークシート配付
- TSR 総合調査の説明 【5分程度】
- マークシート記入 【5～8分程度】
- 満足点、不満点について意見交換 【40分程度】
- 調査票・マークシート回収
- 終了

本調査は、授業時間の一部を割いてもらって行うこととしたため、教員の理解と協力も頂かなければなりません。そこで、学内の会議体である教学運営協議会・コース教務連絡会（9月16日）などで説明を行い、さらに全学規模の教員の会議である教授会連合会（9月30日）でも、私が本調査の意義と方法の説明を行いました。

調査に当たってもらわなければならない全職員に対しては、10月2日および10月5日の二日間に分けて（どちらか、出席できる日で）、学長室が中心となり説明会を開催しました。説明会では、私と上杉理事長特別補佐が趣旨説明と方法等の説明を行い、労力と負担を掛ける職員の方々にご協力を要請しました。併せて、この説明会では、学長室で作成した学生からの聞き取りのデモンストレーションビデオなどを上映して、調査手順の理解の一助にして頂きました。

調査は10月から始まり、年をまたいで本年の1月に終了しました（回答集計学生数：学部生・大学院生 総計3,725名）

この間、11月に調査の中間報告を、学長室拡大会議（学長室メンバーに各部署の部長を加えた会議体）を開いて、情報を共有しました。また、調査終了直後に、調査にあたって頂いた職員へのアンケートと教員に対するアンケートも行いました。両アンケートは、次年度以降も引き続き行うTSR総合調査の改善に役立てたいと思っております。

本調査は学生から学生生活全般について聞いたものであるため、本学の教育に関する本格的な調査は、次年度以降の課題となりました。ただ、本調査結果全体は、大学の教育環境と施設の改善に大きな力を発揮するものであると思います。すぐに方策を講ずることができなかったものについても、その問題を解決すべく引き続き考えて頂くように要請を行っていきます。

Ⅱ. TSR 総合調査の「概要」—調査結果を踏まえた今後の課題—

今回の TSR 総合調査を終えて、本学が抱えている様々な問題点が明らかになりました。同時に、本学が今後も大切にしていかなければならない特質と長所も明らかになりました。

この調査結果をもとに、本学の強みをさらに伸ばし、弱みを一刻も早く是正し改善しなくてはなりません。

今回の調査は、短期的なものであり集中的な試みであったために、運営についての様々な困難もありましたが、期待以上の成果は見られたと思っております。

また、一定の制約の中での調査であったために、網羅的かつ子細な統計データは取られなかったものの、面談を通じて学生からの生の声が聞けたことで、努力した成果が上がったと思われま

す。職員たちが業務の中で調査を行ったことは、大きな負担となりましたが、学生がどのような意識を持っているかということを知りえたことなどが、今後の業務にも活かせることになると思われます。

今回の調査は全学的な理解のもとに、当該の授業時間の中で行わせて頂いたわけですが、面談中の学生の様子と職員の方々の様子をそばで見ている教員の方々にも、この調査の意義を感じ取って頂けたようでした。

以下、本調査から判明した概略を記述し、併せて学長室会議で練った今後の方向性も記したいと思います。

(1) 基本的課題

本調査はアンケート調査（マークシート方式）と全事務職員による学生全員面談によってなされた。アンケート調査の1番目で、大学に対する満足度を聞いた。その結果は、「とても満足・満足」とする者が55.4%、「どちらでもない」とするもの33.6%、「不満」「とても不満」とする者が10.7%であった。

本学が目標としている「首都圏文系大学においてステークホルダーからの期待、信頼、満足度 No.1を目指す」（本学の運営ビジョン）に照らすと、今後「満足とする者」の比率を計画的に増加させていかななくてはならない。

仮に、「満足とする者」100%の目標を、本学創設100周年までの10年間で達成させようとするならば、今後毎年5%ずつ向上させていく必要がある。これは努力次第で達成可能な目標であり、そのことに向けての方策を考えて、手を打っていくべきと考える。

特に深く受け止めなければならないことは、本学の知名度の低さに関する指摘であろう。このことについては、今後本学のブランディングの向上を進めていかなければならない。10年後の本学創立100周年に向けての最大の課題だと考えられる。

(2) 個別分析

アンケート調査結果は、大きく次の3種類に分かれる。

- ① 満足度の高い項目……この項目には、教室・専門教育・教員の態度・友人関係などがあげられる。これらは、今後さらに向上させていくべき項目である。
- ② 満足度の低い項目……この項目には、食堂・学生のモラル・知名度などがあげられる。これらは、今後改善方法を早急に策定しなければならない。
- ③ 認知度と参加度の低い項目……この項目には、就職・地域交流などがあげられる。これらの対

策を講じることが、満足度向上につながるはずである。

以上の諸点における学生の要望を受けて、改善に取り組むものについての例を、次項の「Ⅲ. 分析結果」において大学側の回答（改善策）として掲載してあるので参照されたい。

なお、大学の広報不足はあるものの、イベントや大学主催行事への参加については、学生自身に取り組むものであり、学生の積極的な取り組みを期待したい。

（3） 今後さらに行う方策

アンケートをもとに、学長室会議において検討した結果、以下の方針を策定した。

- ① このアンケート結果をもとに、今後の10年計画と合わせた改善方策を実施していく方針である。
- ② 教員については、教員のTSRマネジメントサイクルを運営する（教育のPDCAサイクルを回す）意向である。教員評価の実施なども視野に入れた教育改革を推進していく。
- ③ 職員については、人事制度改革、「職員行動改革プラン」の実施などを中心とした改革を推進していく方針である。
- ④ 今回の第1回TSR総合調査の運営や評価を見直しつつ、調査の対象・方法も改善しながら、毎年何らかの形で実施する方針である。また、アンケート調査は、ウェブ等を用いて設立100周年に向けて毎年実施する方針である。

以上、調査の概要を記しました。各位のご理解とご協力を賜れば幸いです。

Ⅲ. TSR 総合調査の「分析結果」

TSR 総合調査は、約 5 千人にのぼる本学全学生を対象とするマークシート調査と面談調査によって行われました。この調査を、網羅的に少数意見にも目を配りながら分析することや、結果を端的にまとめることは難しいこととお断りしたうえで、以下に要旨と各項目に関する学生の主なる意見を掲げます。

【1】要旨

施設面では、校舎が新しくて綺麗という意見が多かったことは大学としては喜ばしいことだが、その一方で、学生の使えるパソコンを増やして欲しいなどの学習面での要望や、食堂の拡張や、学生のための居場所をもっと増やしてほしいなどの生活面での要望も多く見られた。

教育面で言えば、学生と教員間の距離の近さを評価する意見が多く見られ、他方で、取りたい授業がなかなか取れないといった履修に関する不満も多く寄せられた。

学生生活面では、友だちやサークル活動が満足をもたらしているのに対して、大学行事等の広報不足で、大学のイベントに参加しづらいことなどがあげられている。情報提供のあり方は、おそらく、様々な不満に共通しうる課題だと思われる。

地域連携および社会的評価面では、学生は、地域の子供や高齢者との交流から様々な経験をしている様子がうかがえる。その一方、地域連携に関する大学の様々な取り組みが学内で認知されていないという指摘があった。

【2】各項目に関する学生の主なる意見

1. 「環境・施設」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- ▶ 綺麗な環境で勉強できるのがよい。(1年生)
- ▶ 図書館やラーニングコモンの利用がしやすい。一人なら図書館、少人数ならラーニングコモンズと使い分けて利用できる。(2年生)
- ▶ スタジオがあるところ。実際に学べるのはうれしい。(3年生)

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- ▶ 昼食の時、学生食堂が混んでいるのもう少し緩和できないでしょうか。(4年生)
- ▶ 簡単に買ってテイクアウトできるお店があるとよいのですが。(3年生)
- ▶ 蔵書の種類の幅を広げてほしい(仏教や中世・現代の分野は多いが、漢文学など他分野の専門書をそろえてほしい)。(修士2年)

(3) 大学側の回答(改善策)

- ▶ 5号館7号館に、フリースペース及び席数を4月までに増設します。
- ▶ 4月からキッチンカー(移動販売)によるお弁当販売に向けて進めています。
- ▶ 図書館の蔵書について、学生の希望や学科の学びに合わせた購入計画をたてます。

2. 「教育」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- 先生が懇切丁寧。卒論や専門以外の質問にも答えてくれる。(修士2年)
- 学科の教員との距離が近く、就職の相談もできる。(2年生)
- 自分の専門ではない分野の授業を取ることができ、自分に不足している分野が明確になった。(2年生)

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- カリキュラムが変わり、資格が4年で取れるか不安です。(3年生)
- 抽選登録で外れてしまい、2次抽選にも漏れてしまうことがある。(2年生)

(3) 大学側の回答(改善策)

- 抽選登録に関して、システムの改善(カスタマイズ)を行いました。
- カリキュラムに関して、1年生から4年生まで切れ目なく、また後からでも履修できるように編成の見直しを進めています。

3. 「学生生活」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- 教員や助手・副手が積極的に声をかけてくれるので、消極的な自分にとって非常に助かる。(1年生)
- 学科コース内でも、部活動でもなんでも話せる友人がいる。(3年生)

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- 他学科の人と関わる機会が少ないため、もっとコースを越えての友人関係を作る行事や場所がほしい。(1年生)
- 他校にはない行事を、もっと宣伝してほしい。(2年生)
- 昼休みの窓口時間の改善をしてほしい。(3年生)

(3) 大学側の回答(改善策)

- 大学で行っている行事への学生の多くの参加を促すために、また行事への参加を通じて他学科の学生間の交流を図るために、広報と推進を進めます。
- 試験的に授業開講期の平日(月～金)の昼休み時間も窓口を開けます。

4. 「就職」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- 一人だと何をしたいかわからない時があるが、メールの案内が届いて迷わずすんだ。(4年生)
- 企業説明会の数が多くてよかった。(4年生)

- 1年生の時から学生全員の個別面談があって、一人ひとりの話を聞いてくれてよかった。(4年生)

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- 公務員対策講座を、低学年から早く受講したいです。(2年生)
- 地方の求人情報や、先輩の就職情報が知りたいです。(2年生)

(3) 大学側の回答(改善策)

- 来年度から大原学園に委託し、低学年から意識付けとともに学力の底上げを行い、裾野を広げたうえで本格的な講座を実施します。
- U・Iターン支援については、各情報の収集や都道府県など関連機関との連携、希望者への情報配信など行っています。また各年度、コース別就職先一覧を作成し学生が閲覧できるようにします。

5. 「地域連携」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- サービスラーニングで地域の方と関わり、座学で学ぶ以外の勉強や交流ができてよい。(2年生)
- 豊島学で豊島区長の話聞いて、区の政策を知ることができたのはよい経験だった。(3年生)
- 大学が積極的に地域に関わってくれるので、学生側のやる気次第でそのコミュニティに参加できる。(2年生)
- 南三陸のスタディーツアーに参加。大正大学は震災後から復興支援を行っていることに誇りを持っている。(4年生)

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- イベントの情報が、学内(学生)に十分に伝わっていません。(3年生)
- イベントにスタッフとして参加したいのですが、どうすれば参加できますか。(2年生)

(3) 大学側の回答(改善策)

- 年間のイベントの年間スケジュールをお知らせします。また、日程が近くなりましたら、タイムスケジュールをT-Poでお知らせします。
- 朝市の参加は自由です。鴨台プロジェクトセンターが窓口になって、月一回第三土曜日に行っています。ご参加ください。

6. 「社会的評価」に対する学生の主な意見

(1) 満足しているところ

[学生の意見]

- 地域密着型で評判がよい。先輩が築いてきた実績が効果にでている。(1年生)
- 公式ホームページが見やすくなった。(3年生)

- 「すがも鳴台観音堂（通称：鳴台さざえ堂）」が出来て知名度が上がった。（4年生）

(2) 不満足なところ

[学生の意見]

- 企業の方にあまり認知されていません。（3年生）
- 大正大学がどこにあるのか知られていません。（修士1年生）

(3) 大学側の回答（改善策）

- 大正大学の様々な取り組みと成果をこれまで以上に積極的に学外へ発信していきます。また、合わせてロゴマークやユニバーシティカラーといったアイデンティティを活用して、ビジュアル面からの認知度向上にも努め、大正大学のブランドイメージの確立を目指します。
- 本学が進めている活動や地域貢献や交流を社会に発信していきます。情報発信を進めて、本学の認知向上に努めていきます。

以上

「第1回 TSR 総合調査」に関する報告

発行日 平成 28 (2016) 年 3 月

発行 大正大学 TSR 総合調査委員会
〒170-8470

東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

TEL 03-5394-3025

FAX 03-5394-3068

禁無断転載



大正大学